

シンガポール訪問

宗片邦義

十一月下旬、五日間ほど常夏の国シンガポールを訪問した。

リヴァー・クルーズを楽しみながら、マールライオンや高層ビルの繁華街で幾つか美術館を見学、ヒンズー教・仏教・イスラム教などの寺院を巡り、一九四一年十二月、日英戦の戦場のセントーサ島を訪ね、三年半のシンガポール（昭南島と改名し）日本占領の後の一九四五年八月、日本降伏の調印式の蠟人形展その他の記録を見学。戦争の悲惨さ、哀れを痛感。

最後の日には孤島ユービン島も訪ねて、タクシーのガイドに馴れたイノシシ家族五・六頭に見送られる一幕もあり。

五日間の滞在中最も感銘したのは、アジア文明博物館 (Asian Civilizations Museum, ACM) で、入口入ってすぐ真正面に、釈迦とキリストの顔を融合させた

かとも思われる大きな彫像に出会ったこと。またこの博物館の展示品の素晴らしさ、そしてその多さ。

小さな島国と思っていたシンガポールが、その活気といい、国際性といい、多様性といい、今や東京の比ではないとさえ思われ、この国の発展が、単に和平への場の提供にとどまらず、人類進化の方向へのいわば船頭となってくれる希望さえ抱いて帰国の途についたのだった。

平和への庭となりしか孤島にては

イノシシ一家の見送りありき

プロフィール

宗片邦義（むなかた・くによし）

静岡大学名誉教授。国際融合文化学会会長。シェイクスピア四大悲劇を原文のまま英語能に制作、自らシテを演じ、国内外で公演。漱石が明治44年に提唱した日

新作能公演のお知らせ

2019年3月24日(日)

観世能楽堂(東京・銀座シックス)にて



新作能『たたかわざる者』

ーヘンリー・ソローとR.H.ブライズー

(原作：宗片邦義 作能：津村禮次郎)

同時上演

古典能『羽衣・和合之舞』

(天女：津村禮次郎 漁師：野口能弘・野口琢弘)

平和を愛する皆様へ

シテは現陛下の皇太子時代の家庭教師、
ブライズ先生の霊です。

拙作中の最高傑作(?)と思います。

(宗片邦義先生のメッセージより)

本語シェイクスピア能は津村禮次郎シテ「能オセロー」で実現。ほか「能 ロミオとジュリエット」など新作能多数。著書に『英語能ハムレット』Noh Adaptation of Shakespeare『ブライズ先生、ありがとう』など。2015年春の叙勲で「瑞宝中綬章」受章。

国際融合文化学会HP、<https://ishec.stars.ne.jp/>、所収『融合文化研究』9号に、山波言太郎(名誉会員)「リラ自然音楽と融合文化」(大会講演)掲載。大論文です。

E-mail: kuniyoshi@munagumi.com

チケット・公演に関するお問い合わせ先

メール: ticket.ryokusenkai@gmail.com